

同窓会の幹事を任された中村は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、山本です」

「夜分遅く恐れ入ります。中村と申しますが直也さんいらつしやいますか？」

「まだ仕事から戻ってこないんですが・・・」

「あ、そうですか。私、直也さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりまして、その連絡なんです」

「そうですか。それでは戻りましたら直也の方からすぐお電話させます。すみませんが、もう一度お名前をお願いします」

「中村洋一と申します」

「中村洋一さんですね。そちらのお電話番号は、直也は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。二四一―四六〇一です」

「二四一―四六〇一ですね。わかりました。直也は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月十二日の木曜日に、七時から目黒にある松乃屋という日本料理屋で同窓会を開くことになったんです。それで、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝えいただけますか？」

「来月十二日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしくお願いします」

数日後、山本から連絡が入った。

「はい、中村です」

「夜分恐れ入ります。山本と申しますが洋一さんご在宅でしょうか？」

「もしもし山本か、久しぶり！」

「久しぶりだな！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、十二日は残念ながら出席できそうもないんだ。最近忙しくてなかなか定時で帰れないんだよ。十二日は七時前に終わったとしても、それから目黒まで行ったら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できないか？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしているからさ」

「そうだなあ・・・それじゃ早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、店の住所と電話番号を教えてよ」

「住所は東京都目黒区中目黒二―七―一、電話番号は〇三―二六五―一―二四一、松乃屋っていう日本料理屋なんだ。大通り沿いにあるから場所はすぐにわかると思うよ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

中村はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに再度、確認の電話を入れた。